

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172001075		
法人名	株式会社 Eライフ恵愛		
事業所名	グループホーム恵の森		
所在地	小樽市長橋5丁目17番5号		
自己評価作成日	平成22年9月15日	評価結果市町村受理日	平成22年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・日常の関わりをおし、カンファレンスなどを経て、ご本人の能力を見極めたくうえでアクティビティを多く取り入れ、日々の生活に張りがあるよう、工夫に努めております。

・連携の良いチームケアをとおして、理念の実現に手ごたえを感じております。

・地域の方々や関係機関・団体から多くの協力を得られ、「地域で支える介護」を実践できることに、チーム一同誇りを感じております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172001075&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成 22 年 9 月 28 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「個人の意志や自由を尊重し、誇り高い毎日を送っていただきます」という理念の一節に沿って、利用者の能力や思いを見極めながら、一人ひとりに応じた自立支援に向けて質の高いチームアプローチを展開しているホームです。近隣住民の方々や町内会、近隣業者、関係機関等と積極的に交流を図り、相互に支え合う関係を構築して利用者の生活の質向上に資する「地域で支える介護」に取り組んでいます。利用者による「恵の森合唱団」やシルバーエイジ作品展への出品は利用者の心身機能の維持・向上を促し、社会参加の機会となって利用者の自信回復に繋がっています。介護度の高い利用者が多い場所では、食事は業者を利用するなど、職員が介護に専念できる体制となっています。運営者は職員の資質向上や資格取得をバックアップする職場環境を整備し、職員はそれに応じて自己研鑽に努めながら、ともにより良いケアサービスの提供を目指して一丸となって取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本となる3本の柱を軸に、ご本人、ご家族、地域の方々や関係機関と関わりを深め、その実践に努めております。	理念の一つに「地域に密着した開かれた施設をめざす」ことを謳い、カンファレンス等で理念を職員と共有しながら、日々のサービス実践に繋げています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	道路のゴミ拾い、草刈りや除雪などは近隣を含めて行い、日常的に挨拶や会話などを交わす関係を築いております。また、町内会の班長を務めており役員の方々との交流にも努めています。	班長として町内会活動に関わり、除雪機で近隣道路の除雪、消火栓確保等、地域貢献に努めています。シルバーエイジ作品展への出品、行事交流も実施しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご町内の方からの介護相談については予約なしにおいて対応致しております。また、ボランティアに来て下さる方を対象に、認知症サポーター養成講座実施に向け、取り組んでおります。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議体においての報告や説明だけでなく、ホーム行事等とおして利用者様の表情や、職員との関わりなどを実際に触れていただく機会を設け、ご意見を頂く事にも努めています	年6回を目途に会議は家族、地域住民の方々に参加しやすい行事を兼ねて開催し、利用者との直接交流を通して、会議の構成員と意見交換し、サービス向上に活かしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービス提供していくうえで、不明な点及び問題点が生じた時は、介護保険課及び生活支援課にその都度確認し、サービスの質の向上に取り組んでいる。	行政担当者とは連絡や確認、相談の機会を持ち、適切なサービス提供に繋がる協力関係を築いています。また、ケースワーカーと協働して利用者の生活支援をしています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを基本に取り組んでおります。また、外部研修受講に努め、その後内部研修に活かし、全職員の理解に努め、日々のケアに取り組んでおります。	外部・内部研修を通して、身体拘束をしないケアの理解に努めています。日中玄関は施錠なく、日常の言葉掛けが、行動抑制に繋がっていないか互いに確認し、全職員が身体拘束のないケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修受講に努め、その後内部研修に生かし、全職員の理解に努め、その防止に努めております。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修受講に努め、その後内部研修に活かし、全職員の理解に努め、ご家族や介護相談等に生かしております。また、市民後見人養成基礎講座を一部職員受講し、知識を深め、地域貢献できる環境づくりにも取り組みます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前見学や入居相談などの際にその機会を設け、事前に不安や疑問の解消に努め、ご納得をいただいてから契約を交わすことを実践しております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議、ケアプラン見直し時などを意見・要望等を受ける機会とし、ユニット会議や運営推進会議を情報開示の場としてとらえて運営しております。	面会や行事、ケアプラン見直し時及び運営推進会議等で来訪した際には、話しやすい雰囲気を作り、家族の意見、要望の聴取に努めています。	職員は、家族からいただく感謝の言葉に自信を抱きながらも、意見や不満を言い出しにくい家族の立場を理解しています。さらなるサービスの質向上に向けて、声なき声を拾い上げる方策の検討を期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、カンファレンス、研修会等において、職員からの意見や提案を受ける機会を設け、その実践に努めております。	毎月の会議やカンファレンス、研修会等で、職員は自由に意見や提案を行っています。ケアサービスの目標や行事、外出先など、職員の意見を運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護サービスという素晴らしい仕事に、向上心が止むことがないよう、環境整備に努め、やりがいに繋がるような知識習得の機会や費用負担、資格取得に係る支援にも努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員各自のスキルを把握し、その人に適した外部研修等の受講機会を設け、全体と細部を見極められる職員を目指して、その機会づくりに取り組んでおります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム職員の方並びに事業者の方々との交流の機会を持ち、利用者様同士の交流や職員間の交流をとおしてサービスの向上に繋がるよう、実践しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所後は、ご本人が持つ不安が取り除くことができるよう、他のご利用者さんとのなじみの関係づくりに努め、一方、安心感を早期に持てるよう職員との関係づくりに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族がいままで持っておられた不安感やいら立ち等の気持ちを察し、どんなことでもお話ができるような環境造りに努め、初期段階での信頼関係構築に努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでの生活において、どのような事を期待し、要望されるのか、ご本人とご家族から傾聴し、それらの対応方法等の提案などを行い、ご理解いただけるよう努めております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と職員が、共に行動、共に行う仕事など、共に過ごす時間において感謝の言葉と挨拶など交わす事などにおいて、自然な関係づくりを普通に行っております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現況報告は、こまめに行う事を基本にしております。今まで、関心のなかった事に取り組まれた事に対しご家族と共に喜び、出来なくなってきた事に対し共に考え、要望を伺う、そのような関係性を保っております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでご本人と関係のあった隣人やお知り合いの方などの面会や電話など頂けるよう、ご家族の協力を仰ぎ、その関係が継続できるよう、支援に努めております。	利用者の生活歴やこれまでの人間関係を把握し、面会や電話の支援をするとともに、馴染みの市場や懐かしい場所への外出機会を設け、関係継続の支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションがとれるよう仲立ちし、ご利用者同士が友好的に関われるよう努めております。お互いの居室を訪ね合ったり、他の方々に関わりが持てるよう、機会づくりに努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者さん宅を訪問し、ご家族と連絡を取り合うなど可能な限りお付き合いは継続しております。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の意思と尊厳を重んじ、日常の関わりの中で、その方が求めている事や喜ぶ事を把握し、ご本人の希望、意向に沿えるよう努めております。	生活歴や記録を参考に、日々利用者の意思確認に努め、自己選択を尊重して希望や意向に沿った暮らしを支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用していたサービス提供事業所、病医院、ご本人、ご家族から、できるだけ情報を提供していただいたうえでアセスメントを行っております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の様子、記録等から現状の生活パターンや日課、役割、楽しみなど、一人ひとり把握し、趣味、嗜好などの現状把握に努めております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意見や要望を聞き、より良い暮らしを目指した介護計画を作成している。また、ご本人が立てた目標が達成できるよう、職員間で連携をとり、支援に努めております。	利用者の能力を適切にアセスメントして、家族の意見や利用者の目標を反映した介護計画を作成し、モニタリングで現状に合った支援をしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子やケアの実践についてはその方の「介護記録」に記載し、定期的カンファレンスを行い、ケアプラン見直しに繋げております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助など、ご家族の負担軽減に努めております。また、連携のグループホームや当所2階エントの利用者方々との交流を深め、社会参加に努めてます		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各関係機関、団体から、円滑にご支援ご協力を受けることができるよう、連絡、調整に努めております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人又はご家族の希望される医療機関に、ご家族のご負担軽減を基本に、通院及び往診の支援に努めております。	協力医による月2回の往診のほか、かかりつけ医へは看護師同行で通院し、医療情報を家族、職員が共有して、適切な医療を受けられるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の方々の状態変化や気づきに対しては、介護職員から看護職員へ速やかに伝達し、看護職員は適時主治医等に相談し、その指示等に適切に対処しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の必要が生じた場合は、一日も早く退院できるよう、医療機関に情報提供を行い、ご本人、ご家族が安心して治療に専念できるよう支援に努めております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、主治医、ホーム（管理者、看護職）にて、看取りの場所、緩和ケアについて十分に話し合い、その後の方針を決める。また、全職員にてカンファを行い、苦痛のない支援に努める	重度化及び看取りに関する指針を作成し、ホームの対応について家族に説明して、同意を得ています。繰り返し話し合い、全員で方針の共有を図っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員指導のもと、内部研修体制がとられております。また、消防本部主催の「普通救命講習」の受講支援を行っております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、定期的に行っております。また、ご町内の方の参加を得て、夜間想定訓練を行い、地域の方々や関係機関の協力を得られるよう、関係づくりに努めております。	年2回の避難訓練の内、1回は消防署立ち会いで利用者と夜間想定訓練をしています。近隣ホームと一時避難場所の契約を交わし、地域との連携強化を図っています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護倫理を理解し、言葉づかいの基準を設け、介護を提供する際の望ましい態度について学ぶ。また、個人情報の取扱いと守秘義務の励行に努めてます	職員は利用者の状況を踏まえて、尊厳ある対応に努めるとともに、守秘義務に関する誓約書をホームと取り交わし、個人情報保護の徹底を図っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人がしたい事などを会話をとおしてその希望を読み取り、また、そうできない場合は、複数の提案を行った上で、自己決定がされるよう努めてます		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者第一、業務は二の次と考え、焦らず、ゆっくりと対応し、会話の中から希望があった場合は、それぞれに合わせた支援ができるように努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者やご家族様のご希望に沿い、理美容同行や買い物支援などを適宜行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	LDK内のダイニングテーブルの配置変更や座席位置等、ご本人の希望に配慮し、また、調理～下膳、食器の選定などもご利用者と職員が協働しています	利用者の能力に応じて、買い物や調理、後片づけを職員とともにしています。献立や外食など、食事を楽しむ工夫をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員間で相談し、バランスの取れたメニュー作りを行っています。全員の食事、水分の摂取量を把握し、量の確保に工夫を行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前の手洗い、毎食後の歯磨き、うがい、義歯洗浄は声がけ、促し、介助にて清潔を保つよう、支援しております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	飲水・排泄チェック表により把握したパターンにより、声がけ、見守り、介助にて支援し、職員一丸となって汚染軽減と目標を持って自立支援に努めております。	チェック表で利用者の排泄パターンを把握しています。適切な介助で「失禁0運動」をチームで展開し、段階的な目標達成に繋がる支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品、野菜、水分の摂取に心がけ、メニューの内容、水分量を確認し、適度な運動量に配慮し、便秘の予防に努めております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の体調を確認したうえで、希望や気分に合わせて対応しております。	利用者の体調に配慮し、希望に応じた時間帯や回数（週2～5回）で、ゆったりと入浴ができるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安感などで寝付けない方には、お話を傾聴し、安心感を持っていただけるまで職員と一緒に過ごし、その後睡眠に入れるよう工夫に努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報は、職員は情報を共有しております。また、副作用等についてのリスクなどは、適宜、看護職から伝達を受けることしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	多くのアクティビティを提供し、気分転換を図れるよう支援しております。また、熱中される事（手芸など）ができたなら、継続できるよう支援しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日は、出来るだけ屋外での体操、食事、散歩やドライブ、カラオケ等、外出支援しております。ご本人からの訴えが無くても、散歩や買い物に出かけるよう促し、支援しております。	天候や体調に合わせて、屋外での体操、買い物や散歩など、車椅子利用者も含めて日常的な外出を支援しています。利用者の希望でカラオケに出かけたり、家族の協力を得て墓参りに出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の能力やご家族の要望や同意に応じ、買い物支援や自己管理への支援を行っております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公文書写教室のボランティアを受け、手紙の差出など、その機会が増えました。また、電話は、いつでもご利用できるようにしております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾り付けを行い、四季を感じていただいている。また、装飾品は利用者様が製作されたものを多く取り入れ、ご利用者の方々が作り上げた自分達の住空間であること、を感じられるよう配慮に努めております。	バリアフリーの広々とした共用空間は、明るく開放的で清潔です。季節毎の装飾やアレンジメントフラワー、利用者の作成したハワイアンキルト等の作品が壁面を飾り、上品で居心地良い空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	LDKにはダイニングテーブル以外にソファセットを配置し、気分や趣味(手芸、小物製作)に合わせて過ごしていただける空間づくりに努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れた物や好みの物、思い出の物などを持ってきてもらい、穏やかに、また居心地良く過ごされる居室にさせていただいてる。	利用者は好みの生活用品や思い出の品、花鉢、針箱や手芸用品などを自由に持ち込み、安心して過ごせる居心地の良い居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、廊下、トイレ、浴室、階段、EV、LDK等、必要と思われる箇所全てに手摺を設置し、また、廊下に障害物となるような物は置かず、安全な環境づくりに努めている。		